



# 発達支援に対するアプローチ

---

フォーレスト訪問看護ステーション  
理学療法士 大橋 美香



# 症例

---

- OS 3歳10ヶ月 女児
- ダウン症候群による精神運動発達遅滞
- 病院のリハビリ 月1回、親子教室 週2～3回
- 病院では何でもイヤイヤ

運動発達も伸び悩み、伝い歩きから1年経過  
4歳の誕生日まで一人歩きができたら、

来年から通園施設に通うことができるのに。

⇒ 保健師さんからの紹介を受ける



# 発達支援ニーズ分類

## 乳幼児期 社会参加支援タイプ

---

- ・リハビリは受けているが、環境変化の適応が難しく運動発達が伸び悩んでいる
- ・自宅のリラックスできる環境の中で実力を発揮するタイプ
- ・通園施設入園の準備へ向けた支援が必要  
(歩けたら入園できるという母の思いが強い)



# 目標

---

- お誕生日まで一人歩きができるようになること
- 通園施設入所までの移行支援



# 課題

---

- 歩行は伝い歩きから手引き歩行レベル。室内いざり移動。両足を広げ、床に体をもたれてペタンと座ることが主。
- 動作は腰椎伸展、股関節外転、back kneeで関節をロックした動作パターン。左右交互性の運動や対称的な動き、協調運動の経験が未熟
- 四肢・体幹ともに低緊張で過可動域。抗重力伸展筋群の活動性が高まりにくい状態。
- 新しいことに対して慎重。立位や歩行時に掴むところがないとしゃがみ込んでしまう。



# アプローチ

---

- 姿勢や運動のバリエーションを広げていくこと。ダイナミックな遊びから筋活動を高めて、座位主体の生活から立位・歩行の生活へ切り替えていくこと。
- 筋力を促したり、歩行へ結びつけるような遊びや運動を母親にアドバイスをしていくこと。



## 3ヶ月経過して・・・

---

- 変化点

数歩の歩行が可能。

（誘導が必要で自ら行うことに対しては消極的）

高いところへの興味が広がり、立位保持も安定

。

生活場面で立位場面が増えてきている。



## これからの課題

---

- 日常的に一人歩きが定着するようになること
- 引き続き、通園施設入園へ向けた支援